

『今、直売所がおもしろい!』

いよいよ、うるま市に農水産物の直売所ができます。 かわら版1号

今、直売所がおもしろい! 道の駅・直売所の先進事例講演会

去る十一月十二日に健康福祉センターうるまにて、平成二十八年年度供用開始予定の農水産物直売所に関して、事業のキックオフ講演会を開催いたしました。

当日は雨模様だったにもかかわらず、約200名の市民が集い、熱気あふれる講演会となりました。講師は栃木県の滞在体験型ファームパーク「ろまんちっく村」を運営し、食農連携コーディネーターの松本氏。「直売所は地域活性化の中核拠点になる」ことや「沖繩にも数多くある直売所の中で、差別化を図らなければ生き残れない」事など、全国の成功事例やろまんちっく村をモデルに、仕組みづくり・人材育成の手法などを講演していただきました。また講演後の質疑応答の際にはうるま市の活性化を願う市民から、松本氏に質問が相次ぎ、事業への期待と関心の高さが伺えました。

更に講演会後には、うるま市長と松本氏による座談会が行われ、市長自らこの事業の必要性と意思を市民の皆さまへ語っていただきました。



第1回ワークショップ

うるま市では直売所をつくるにあたり、十一月十三日に市民からの希望者を対象に、第1回ワークショップを開催いたしました。

前日の演者である松本氏のもと、約50名で行われたワークショップでは、参加者が6〜7名のグループに分かれ、グループごとに現在のうるま市の魅力・問題点を探し出しました。

参加者からは、「うるま市は良い素材はたくさん持っているが、それをうまくPRできていない」や、「沖繩本島の中心部に位置しているのに、その立地をうまく利用できない」など、うるま市これからの真剣に考えた意見が出されていました。

うるま市がこの事業で目指すものは、単なるハコモノに終わることのない、将来にわたって市民のため、そしてうるま市全体の価値を高めていく「農水産業振興戦略拠点施設」です。

これからも市民協働で共にこの施設をつくりあげてまいります。

